

研究開発／知的財産戦略

- 関連するマテリアリティ
- 気候変動への対応
 - 製品の価値および信頼性の向上
 - 製品・化学物質の安全確保

研究開発総轄執行役員メッセージ



事業戦略のロードマップで目指すべき分野とする5分野に向けて、新製品を開発してまいります。特に、中期経営計画「SPEED 25/30」において「先端電子デバイス用材料」「環境対応型の染料」「ポリオール」「バイオ医薬用材料」「環境重視型の農業資材」といった5つの領域を具体的な事業領域と設定し、そこで培った技術を柔軟な発想で市場ニーズにマッチさせた研究開発を進めてまいります。また、それら技術から派生させた新規分野への取り組みを加速させ、企業としての価値向上につなげてまいります。

取締役 兼 常務執行役員 横山 紀昌

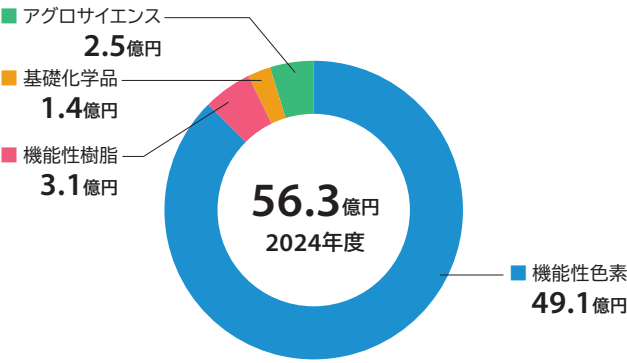
研究開発戦略

保土谷化学グループは、10年間のシナリオ「2030年度のありたい姿」と、中間点としての「2025年度までの目指す姿」を策定しました。その実現に向け、常に多様化する社会ニーズをいち早く捉え、さまざまなお客様の異なるニーズに即応できる研究・開発を進めてまいります。特に、長い歴史で培った技術から生まれたスキル・ノウハウを形にすることで、より新しい機能を備えた製品や製造技術を開発し、「スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢献する企業」の実現に向けた研究開発を行ってまいります。

また、スペシャリティ製品の創出を通してイノベーション

を促進し、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくる」の達成にも寄与してまいります。

研究開発投資額（セグメント別）



「SPEED 25/30」における基本戦略

戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

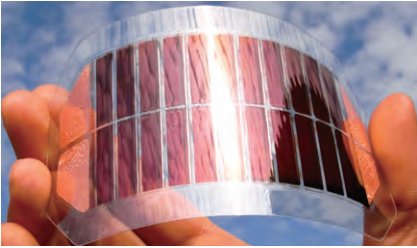
研究開発体制の強化

- 機能性色素材料の新製品創出と発展
- 新規研究テーマの開発ステージへの進展・育成
- 新規研究テーマの持続的な創出活動を展開
- 研究から、量産化のスピーディーな実現を可能とする組織体制の整備

● 戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

保土谷化学グループは、これまで100年以上の歴史の中で積み上げた技術を土台に、筑波研究所、国内三工場および韓国グループ会社のHCK、SFCを中心とした研究開発を通じて、戦略製品の拡大と発展を目指しています。中でも、有機ELを中心として培った独自の技術やノウハウを強化・応用することで、ペロブスカイト型太陽電池を始めとした応用分野への進出や、バイオ分野・半導体分野の拡充も目指しております。また、機能性色素の応用展開として、センサー用途で期待されている近赤外線吸収色素（NIR）等の研究開発にも取り組んでおります。

さらに、次世代の新事業の創出に向けて、「新規テーマ探索プロジェクト」を中心に、「電子・情報」「モビリティ」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「農業・食品」分野において、長期的視野に立った研究開発戦略の構築のために調査・探索し、その実現を目指してまいります。



ペロブスカイト型太陽電池

● ペロブスカイト型太陽電池への取り組み

ペロブスカイト型太陽電池は、2040年の市場規模が全世界で2兆4,000億円規模に達すると予測されています。日本でも、例えば第7次エネルギー基本計画において、官民関係者による三位一体での取り組みによって2040年には約20GWの導入が目標とされており、国策の一つとして取り組まれています。

一方で、ペロブスカイト型太陽電池の普及のためにはさ

らなる高性能な材料の開発が不可欠です。保土谷化学グループでは、ペロブスカイト型太陽電池の性能を向上させることが期待される材料を複数開発しております。また研究開発においては、産学連携にも取り組んでおり、ペロブスカイト型太陽電池の研究で著名な宮坂力教授との共同研究を通じて、複数の共著論文も発表しました。

今後も、研究開発を加速させることでその普及に努め、また持続可能な社会の実現にも貢献してまいります。

事業戦略のロードマップ



知的財産戦略

● 知的財産戦略の推進

将来の事業ポートフォリオを考慮し、研究開発成果の迅速な出願と権利化を推進しております。

情報検索、特許解析に基づくパテントマップの利用や知財教育等により、特許の質の向上にも注力しており、日経ビジネスの知財経営ランキングにおいて、2023年と2025年に、連続して特許価値成長ランキングに掲載されまし

た。特に知財教育では、「権利化を念頭に置いて研究・開発を行うことが重要」との理念から、自社の事例をケーススタディーとして、最前線の研究員全員を対象に講座を開催しています。

今後も、グローバルな事業展開への対応のため、国内外での確実な権利化を目指してまいります。

VOICE



保土谷化学韓国 Y.H.

海外拠点における研究開発と開発営業

保土谷化学韓国（HCK）では、主に韓国の顧客に対して有機EL材料の開発および開発営業を担っております。韓国の文化として効率性とスピードが重視されており、海外の顧客に近いこの拠点において、緊張感とスピード感を持って業務に取り組んでいます。

HCKでは、品質基準の設定や安定的な品質管理も重要な業務のひとつです。実際に評価したデータをもとに品質管理のスペック基準が作成され、納期を意識しながら安定的かつ効率的に品質評価を進めています。そうして実際に製品が世に出ていく姿を目にしたとき、大きなやりがいを感じました。

新たな有機EL材料の開発を継続し、付加価値を提供し続けることを通じて、顧客の新規製品において当社の材料が常に選ばれる存在となることを目指しています。

関連するグループ会社：保土谷コントラクトラボ株式会社
事業内容：化学品の分析および研究開発業務受託

所在地：〒305-0841 茨城県つくば市御幸が丘45番地
TEL 029-858-6886（代表）
ホームページ：http://www.h-contractlabo.co.jp/

